

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：千葉大学大学院 教育学研究科

学年：修士 1 年

留学先大学：York St John University（ヨークセントジョン大学） / イギリス

現在の学期：Semester 1

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	11:00-13:00 World Englishes (Lecture) 13:00-14:00 World Englishes (Seminar) 15:30-17:30 TESOL: Foundations of Second Language Acquisition and Teaching (Lecture)
火	14:00-16:00 Key Concepts for TESOL (Lecture)
水	
木	12:00-13:00 TESOL: Foundations of Second Language Acquisition and Teaching (Seminar)
金	9:00-10:00 Key Concepts for TESOL (Seminar)
土・日	

履修科目や近況について

ヨークセントジョン大学では、1つの Semester ごとに 60 credits の獲得が求められ、多くの授業は 20 credits に相当するので、今期では3つの授業を受講しています。それぞれの授業は、2 時間の Lecture（講義中心）と 1 時間の Seminar（ペアワーク及びグループワーク中心）とに分けて行われます。評価については、私が履修している3つの授業では、提出物やプレゼンテーションなどの成果に基づいて全て行われます。毎回の授業では出席確認はあるものの課題は出ず、評価に直結する大きな提出物やプレゼンテーションが1つの授業につき2～3つ程用意されているという状況です。課題はないものの、毎回の授業前に予め読んでおかなければならない論文が用意されています。この論文読解を含め、予習に時間がかかることが多いです。また、それぞれの授業において、教授の tutorial や drop-in の時間が提示されるので、分からないことや相談したいことがあれば、予約や連絡を済ませた上で教授に対面で直接聞くことができるので安心です。

科目の履修においては、ヨークセントジョン大学が自分の専攻分野と重なる教員養成に重点を置いている点を考慮し、千葉大学大学院での研究や修士論文に活かすことができるようにしました。英語教育について学ぶ TESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages）関連の授業の中から、自分の研究分野（英語の多様性

が多文化理解に与える影響）に関わるものや、英語教育についての知識や理解を幅広く得ることができるものを選びました。

World Englishes では、英語の多様性について、その歴史や仕組み、言語や文化に与える影響を踏まえつつ、学びを深めます。TESOL: Foundations of Second Language Acquisition and Teaching では、TESOL において学習者や指導者に求められる資質能力について、第二言語習得に着目しつつ学びます。Key Concepts for TESOL は、English、Speakers of Other Languages、Teaching というように3つの分野に分けて、TESOL についての知識や理解を幅広く深める授業となっています。



ヨークセントジョン大学（左：入口付近、右：図書館）



学生寮とヨークの空

生活面においては、大学から徒歩で約 10 分かかるところに位置する学生寮に住んでいます。4 人のフラットメイトとの共同生活で、キッチン、バス、トイレが共用です。洗濯は、寮に併設されているコインランドリーで行っています。

また、大学の団体活動においては、日本文化に親しむ Japanese Society に加入していて、週に 1 回の活動に参加しています。Dance Club の taster（体験会）にも参加したのですが、加入するか否か迷っている状況です。

空き時間には、街を散策しつつ買い物をしたり、友達と一緒にご飯を食べたり、大学のジムで運動をしたりして、できる限りアクティブな生活を送ることを心掛けています。土地の歴史や文化を感じられるヨークの伝統的な街並みは、歩いて回るのがとても楽しいです。また、大学やカフェのスイーツを現地のコーヒーや紅茶と一緒に楽しむのも、私にとって至福のひとつです。

大学院のオンライン授業や研究、教員採用試験対策と並行して留学に取り組んでいるため難しいかもしれないのですが、もし今後自分の生活に余裕ができれば、週に 1 回くらいのペースでアルバイトをすることも考えています。また、生活に十分慣れてきたら、イギリスの他の地域やヨーロッパの他の国を旅行して巡りたいと考えています。



ヨークの街並み



シャムブルズ通り

※ハリー・ポッターのダイアゴン横丁のモデルになったと言われているそうです。



お気に入りのカフェ



York Minster (ヨーク大聖堂)

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：千葉大学大学院 教育学研究科

学年：修士 2 年

留学先大学：York St John University（ヨークセントジョン大学） / イギリス

現在の学期：Semester 2

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	14:00-15:00 Deaf Cultures (Seminar)
火	9:00-12:00 Language and Literacy (Workshop) 15:00-17:00 Deaf Cultures (Workshop)
水	9:00-12:00 Descriptive Grammar of English (Workshop)
木	
金	
土・日	

履修科目や近況について

今回の履修登録においても、Semester 1 と同様に千葉大学大学院での自身の研究内容と関連のある授業の履修を希望していましたが、結果的に様々な分野の授業を履修することになりました。

Deaf Cultures では、ろう文化について多様な観点から学びます。1 時間の Seminar では Reading などを通して予習した内容についてディスカッションや意見交換などを行う一方で、2 時間の Workshop は授業資料を活用しつつ教授の説明を聞くという講義形式でした。Language and Literacy は、子どもが書いた文章の分析を通して、人間の言語習得のプロセスについて具体的に学びます。Descriptive Grammar of English では、英文法の仕組みについて、説明を受けて問題を解いていくという演習形式で学びます。授業では、十分に積極的に発言することや、クリティカルシンキングができなかったことを後悔しています。失敗を恐れずに自分から動くことの重要性について、改めて実感できたように思えます。

評価方法は、エッセイ、プレゼンテーション、ブログ作成、テストで、授業によって様々でした。授業や課題では、PebblePad や Padlet という日本では馴染みのなかったツールを使う機会がたくさんあり、課題の大部分が Word を使ったエッセイ形式の日

本での大学生活とは大きく異なる部分を感じました。個人的に、PebblePad や Padlet の使用は便利かつ新鮮で楽しいものでした。



大学の食堂でよく買っていた組み合わせ（スイーツ2つ+スープ）



ウーズ川

次に生活面などプライベートな側面について、様々な観点から紹介します。

まず、体調不良についてです。私は年末から1月辺りまで、抑うつ状態のような症状に非常に悩まされました。具体的な原因は不明ですが、冬季のイギリスの日照時間が短いことや、生活環境の変化に上手に適応できなかったこと、キャパオーバーになってしまったことや失敗続きで自信を喪失してしまったなど、様々な要因が重なることで、心身の不調を患ったのではないかと思います。留学中という特異な状況下では、

特に基本的なこと（生活リズムを整えることなど）を遵守し、無理をせずに自分のペースを大切にすることが重要なのだと改めて実感しました。大学の課題に関しては、事前の手続きや病院から受け取った診断書のオンライン提出を通して、提出期限の延長申請を承認していただき、落ち着いてゆとりをもって取り組むことができました。



ヨークでのクリスマス

また、生活面においては、複数人での寮生活では、一人暮らしや実家暮らしとは異なる心掛けや考え方が重要だと思いました。ルール決めやコミュニケーションに加えて、互いを尊重し理解し合うことが不可欠だと学びました。一人一人状況もキャパシティも生活スタイルも異なるので、異なる中全員が納得できる環境やルールを設けることは難しいことを実感しました。課外活動に関しては、大学の Japanese Society や K-POP Dance Society に加え、地域の留学生用のイベントなどにも、ときどき参加していました。アルバイトに関しては、CV（履歴書のようなもの）を作成しオンラインで応募はしたものの、応募先からの連絡を待っている間に体調不良になってしまい、断念せざるを得なくなりました。イギリスでアルバイトをする際は、オンラインで申し込むだけでなく、自ら応募先に紙媒体の CV を持っていき、そこで担当者に直接 CV を手渡しして面接を申し込む必要があるパターンが多いとのこと。さらに、日本よりも経験重視の傾向が強いという話も聞きました。このように、イギリスでは日本と比較すると特定のアルバイトに就くことがやや困難に感じ、それゆえかアルバイトをしていない学生が日本よりも多いように思えました。



ヨークの市内中心部（City Centre）

大分症状が回復してきた後は、家族や友人とイギリス各地やヨーロッパの様々な国を旅行しました。旅行を通して、国や地域ごとに文化や生活スタイルの違いを多様な観点から知ることができ、非常に興味深かったです。しかし、楽しいことばかりでは

なく、トラブルにも見舞われました。例えば、パリにはいろいろな人がいて、私たちは実際に駅で詐欺に遭ってしまいました。下調べが十分でなかったと反省するとともに、特に異国の地での旅行の準備は前もって念入りにしておくことが重要だと身をもって学びました。



ソープのお店と寮の部屋からの眺め